

※今年度、この「進路だより」を通して、進路に関する情報を伝えていきたいと思っています。大事な情報も含まれますので、生徒・保護者の皆様は必ず目を通すようお願い致します。

～進路決定にあたって～

進路というと、「進路」＝「受験」＝「学力試験」と捉え、点数を上げるにはどうしたらいいかということばかり考えてしまうことがあります。実際に「受験」は進路が決定するまでの1つの過程ですが、それ以前に考えなければならないこと、心がけておかなければならないことなどがあります。主なものを挙げてみましたので、今後の参考にしてみてください。

① これから生きていく上での目標(短期・中期・長期)を明確にもつ

進路を決めるためには自分の生き方に関する目標が不可欠です。手順として、長期の目標(40～50才の自分)から考え、そのための中期の目標(20～30才の自分)を設定します。そして、中期の目標の実現のための短期の目標(中学卒業～20代半ばの自分)を設定していくといった具合です。(昨年度、進路啓発学習で学習しました。)

② 進路に関して家庭でよく話し合う

本人・保護者ともに自分の考えや希望を理解してもらうことや、互いの考えを聞き、十分に検討することが必要です。また、希望する進路先が本人の将来の夢や希望職業にあった進路先であるかも十分に話し合っしてほしいと思います。(単に偏差値や企業名や高校名等で選ぶのはとても危険です。)

③ 担任の先生との相談を密に

今年度は7・8月、11月の2回、三者面談を予定しています。主に、家庭で話し合われた進路希望についての話し合いをします。また、要望があれば随時面談を行いますので、進路に関して何かあれば、早めに担任の先生にご相談下さい。担任の先生とじっくりと話し合うことが進路を決定していく上で重要です。

④ 必要な情報を取得して整理する

進路先について、「校風」・「施設設備」・「教育内容」・「授業料」・「競争倍率や学力」・「通学時間や距離」・「卒業後の進路先」等の情報を取得し、その中で重視するポイントは何なのかを十分に検討して進路先を選択してほしいと思います。情報の取得の手段としてオープンスクールや進路説明会への参加も1つです。

⑤ 基本的な生活習慣を確立する

進路先が入学・採用の判定の材料にするのは広い意味での「学力」です。「学力」とは「生きる力」のことです。ですから、毎日の生活が学力に直結します。そこで、今から「時間やきまりを守る」「あいさつをきちんとする」「提出物は期日まで出す」といった基本的な生活習慣を確立しましょう。(その日だけきちんとしても、相手は見抜きます)

⑥ 柔軟な姿勢をもつ

進路の決定に関して重要な要素が「柔軟な姿勢」です。進路先が望んでいるのはどういう人物なのかを考え、それに自分を合わせていくことが大切です。もちろん、自分の考えで行動することも重要ですが、頑なに自分の考え方を変えないことは、進路に関してはマイナスになることも多いです。

以上のことなどを考慮し、進路について決定してほしいと思います。無理な選択、自分の意志と異なる選択や目的意識のない選択では実りあるものにはならないので注意して下さい。さらに、「最終的には自分の意志と責任で選択する。」「進路決定は終わりではなく、次の世界へのスタートである。」ということを十分に踏まえて進路について検討してほしいと思います。